

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	ニュージーランド	
学校名	静岡県立小山高等学校	氏名	鈴木天華	学年	2

○目的・応募理由

私は高校一年次の探究学習を通して、LGBTQ に向けたパートナーシップ制度が静岡県内の西部と東部とで、制度の普及に偏りがあるという現状を知りました。

また、私たちが通う小山高校では、文系理系の男女比率に大きな偏りがあるという現状に疑問を持ち、日本には『女子は文系で男子は理系』といった固定概念があるのではないかと考えました。

これらの探究学習を踏まえて、私たちの住む日本では、LGBTQ に対する十分な法的制度が行き届いていないこと、またジェンダーギャップが身近に存在するという課題を見つけました。

そこで、私は静岡のトビタテ留学制度を通じて『学校教育におけるジェンダーと LGBTQ の言説-日本とニュージーランドの比較-』というテーマを掲げ、ジェンダーギャップ指数世界第4位を誇るニュージーランドで、3週間の期間で留学を行うことを決めました。

○留学内容

ニュージーランドのオークランドで3週間、ホームステイを行いながら現地の語学学校に通いました。私の通う語学学校では毎日授業が午前中に終了したため、放課後の午後からは探究テーマに対する探究活動を行うことができ、語学学習と探究活動を両立させることができました。

ホームステイ先ではホストマザーとホストシスター、またエクアドル、中国出身のルームメイトと一緒に生活しました。それぞれの国の文化を学び、異文化交流を楽しみました。



↑ ホームステイ先での様子



↑ 語学学校での様子



↑ オークランドにて撮影



○探究活動

探究方法としては、街頭アンケートをメインに行いました。街頭アンケートでは、駅前やショッピングモールなどの人が多く集まる場所で、平日の放課後や休日の時間を使って行いました。具体的な方法としては、街を歩く人やベンチに座る人に直接声を掛け、口頭での質問を行い、一人一人の回答を紙に記入しました。探究活動の成果として、街頭アンケートでは、3週間の期間で合計約160人に調査をすることができました。

このアンケートでは、ニュージーランドの人々のジェンダー意識や高校生の文系理系の男女比率、またLGBTQに対する意識についての調査を行うことができました。

他にも、語学学校でLGBTQの授業を履修したり、歴史博物館で先住民族のマオリについて学んだりしたことで、ニュージーランドの多様性社会を構築する要因を歴史的観点から理解を深めることができました。

ジェンダーに関する街頭アンケートでは、自分が想像していた以上にニュージーランドでジェンダーギャップを感じる機会があると答えた人が多かったことに驚きました。ニュージーランドでも学校や職場、家庭など様々な場面でジェンダーギャップを感じることもある、という点においては日本の現状とあまり変わらないように感じました。この結果を踏まえて、ジェンダーギャップ指数というのはあくまで政治や経済、健康、教育における男女平等の値を示すものであり、『ジェンダーギャップ指数上位の国＝ジェンダーギャップを感じることは無い』という訳ではないのだと思いました。

一方で、LGBTQに関するアンケートでは多くの方がLGBTQに対して定的に捉えており、マイノリティに寛容な人が多くいるのだと感じました。



↑街頭アンケートの様子

○トビタテ留学を終えて

私はもともと高校卒業後の進路が決まっておらず、将来の夢も漠然としていました。しかしこの静岡のトビタテ留学制度を通して、高校生のうちに海外留学を経験したことで海外の文化や歴史に興味を持つことができ、卒業後は国際関係学部のある四年制大学に進学したいと考えるようになりました。留学を通して自分が本当にやりたいことを見つけることができました。

そして留学後の今、トビタテ留学 JAPAN を通して得た経験が私の視野を大きく広げてくれました。今回の留学によって得た多くの方々との繋がりを、これからも大切にしていきたいです。